



イギリス

子どもに人気のスライムから有害物質

● Which? ホームページ <https://www.which.co.uk/news/2018/07/childrens-toy-slime-on-sale-with-up-to-four-times-eu-safety-limit-of-potentially-unsafe-chemical/> ほか

スライムが再び大人気ようだ。そこでWhich?では、玩具店等で頻繁に目にするものや、ネット通販で販売ランキング上位の11銘柄を選び、材料成分中のホウ素の含有量を調べた。

ホウ素はスライムにゼラチンのような感触と粘着性をもたらす材料として加えられるホウ砂しやに含まれている。高レベルのホウ素に触れたり、誤飲すると、炎症、下痢や吐き気、一時的な痙攣けいれんなどを起こす。さらにEUでは、非常に高レベルのホウ素は、胎児に対する先天性異常、低出生体重等の悪影響を及ぼし得ると指摘、子ども用玩具における許容量を300mg/kgと定めている。

テストでは8銘柄がこの基準を超え、1,400mg/kgを含む銘柄もあった。高レベルの銘柄はいずれも世界最大の通販サイトで販売され、安全レベルの3銘柄のうち2つは、ディスカウントショップと玩具

専門店で販売されていた。該当の製品はWhich?の指摘を受けサイトから削除されたが、所持している場合は返品し返金を受けるようWhich?はアドバイスする。また、製品のラベル表示の中には虚偽の成分量を記載し勝手にCEマーク（EU基準適合マーク）を貼付しているものもあり、注意を要する。

ホウ砂は一般的な物質で、フェイスクリームや家庭用洗剤などに含まれているため、身近な材料で簡単にスライムを手作りできるが、高レベルのホウ素入りスライムができ上がるおそれがあることに留意すべきだ。

Which?は、危険性のある製品の製造を直ちに中止し店頭や家庭から排除するよう求めるとともに、今回の結果を2018年1月に発足したOPSS（製品安全・基準局）に情報提供し、詳細な調査を要請した。



アメリカ

食中毒予防の基本は手洗いから

● USDA ホームページ <https://www.usda.gov/media/press-releases/2018/06/28/study-shows-most-people-are-spreading-dangerous-bacteria-around>
● CDC ホームページ <https://www.cdc.gov/ecoli/2018/o157h7-04-18/index.html> <https://www.cdc.gov/foodborneburden/> ほか

CDC（疾病予防管理センター）によると、アメリカでは毎年約4800万人が食中毒りかんに罹患し、12万8,000人が入院、3,000人が死亡するという。2018年4月にも、腸管出血性大腸菌O-157による大規模な集団食中毒が発生し、36州で患者210人、うち96人が入院し5人が亡くなっている。

USDA（農務省）は、家庭での生肉調理時に肉用温度計の使用を促進する啓発ビデオを作成、その効果を検証するため、参加者383人を啓発ビデオ視聴グループと非視聴グループに分け、テストキッチンでバーガーとサラダの調理実験（調理状況の録画および参加者へのインタビュー）を行った。その結果、温度計の使用に関しては、実験前にビデオを視聴したグループでは、非視聴グループの2倍強の75%が調理中に温度計を使用し、一定の効果が

あったとされた。しかし、温度計が正しく肉の芯部まで到達していない、必要とされる温度（牛・豚等で約63℃、バーガー用挽肉約71℃、鶏肉約74℃）まで加熱していない、などの問題点も見いだされた。

さらに懸念されたのが、啓発ビデオにはなかった手洗いに関する点だ。両グループの参加者各人には調理前や特に生肉を扱う前後など、本来手洗いが必要な機会が何度もあったにもかかわらず、その9割以上で適切な手洗いをしておらず、手洗いへの無関心が目立つ驚くべき結果となった。

不十分な手洗いは、交差汚染（二次汚染）をもたらす。USDAの担当者は「細菌は目に見えず、臭わない。家族を食中毒から守る最もシンプルな方法は正しい手洗いから」と、その重要性を強調している。



ドイツ

サポート力の高いスポーツブラは少ない

●商品テスト財団『テスト』2018年7月号 <https://www.test.de/Sport-BHs-imTest-1184467-0/>

スポーツウーマンにとって欠かせないアイテムが、バストの揺れをサポートするスポーツブラである。しかし、身体に合わないブラを身に着けて運動すると、不快なばかりでなく、首・肩凝りの原因となり、バストの組織を損傷するおそれもある。

そこで、商品テスト財団は、高いサポート力をうたうスポーツブラ12商品を試買し、バストのサポート力、着け心地を中心にテストした。テストにはランニングマシンとトレーニングコースを使い、サイズ80Cまたは85Dのブラを着用した複数のスポーツ愛好家に、前・横・後ろ方向に走ってもらった。運動のようすは高解像度カメラで撮影し、専門家がバストの動きを分析するとともに、運動後、スポーツ愛好家には、サポート感や着用感、自身で購入したいか等を質問した。

その結果、運動中のバストの揺れをしっかりサポートできたブラは、2商品だけだったという。もっとも同財団は、どの女性にもぴったりに合うブラは存在しないという見解をとる。体型に個人差があるうえ、個々の消費者が求める理想のブラにも差があるからだという。例えば、Yバックのブラの場合、肩からずり落ちないので使いやすいと評価する消費者がいる一方で、肩幅の広い消費者は、着脱に苦労するので使いにくいと回答している。また、同じ80Cサイズでも、メーカーやデザインの違いから、実際のサイズ感が異なることも、選択を難しくしていると指摘する。

そこで、スポーツブラを購入する際は、色々な商品を試着するとともに、販売員に助言を求めるよう勧めている。



オーストリア

ほとんどが高評価だった菜種油、ひまわり油

●VKI『消費者』2018年5月号 <https://www.konsument.at/test-raps-sonnenblumenoel052018>

菜種油、ひまわり油は、オーストリアの家庭でよく使われる食用油である。ところが、「テスト対象となるのはオリーブ油ばかりで、菜種油の情報がないのは残念」という声が、『消費者』誌の定期購読者から上がった。これを契機にアンケートを取ったところ、菜種油、ひまわり油のテストを求める読者が多いことが分かった。そこで、VKI（オーストリア消費者情報協会）は両者のテストを行うこととした。

対象に選んだのは、菜種油10商品、ひまわり油5商品の計15商品。製法について明らかにする商品は少なく、4商品にだけ「低温圧搾」と表示されていた。有機表示は5商品にあり、低温圧搾表示と重なっていたのは3商品だった。テスト項目として最も重視したのは、有害物質（3-MCPD脂肪酸エステルおよびグリシドール脂肪酸エステル、可塑剤、

多環芳香族炭化水素等）含有の有無である。テストの結果、多環芳香族炭化水素が含まれていた1商品（低温圧搾、有機のひまわり油）を除いて有害物質は検出されず、申し分ないと評価された。

原料原産地および容器への充填地は、約半数の商品でオーストリアと表示されていた。同協会が念のため、事業者に原産地・充填地を質問したところ、全商品の表示と回答が合致した。

菜種油、ひまわり油は、温かい料理にも、冷たい料理にも使える万能油だと言われている。低温圧搾油は濃い色、特徴的な味・香りで、冷たい料理によく合うという。一方、低温圧搾油と表示されていない商品のほとんどは精製油で、薄い色、癖のない味だという。同協会は、自身の嗜好に合った食用油を選ぶよう助言している。